

報告者:野口(フロム千束)

令和6年度 第2回障害者地域自立支援協議会(くらしの部会)報告

1. 開催日

毎月第3水曜日 10:30~12:00

リモート開催 5/15、6/19、7/17、8/21(計4回)

2. 検討した内容

(1) 検討テーマ「人材確保」

前回報告時から引き続き、人材確保の課題に対して部会として取り組んでいくべき内容について話し合った。人材確保・人材定着・離職防止等の状況把握の為に、区内障害福祉分野各事業所職員向け(常勤、非常勤、派遣職員、アルバイトを対象)に LOGO フォームを利用したアンケートを7月に実施した。内容としては業種、年齢、勤務形態、勤続年数、役職等の確認を基に、仕事への満足度、実収入金額と適正と思う収入金額、就労継続意向等の質問(詳細は別紙参照)。アンケート解答者は149名だった。

[アンケート内容の総評]

- ・回答者は主に常勤者、一般職が最も多く、年齢的には20代から60代まで満遍なく分布しているが、40代が最も多かった。
- ・勤続年数としては、勤続年数3年目までの新人と、7年以上のベテランが、ほぼ半分ずつを占めている。現在の手取りの給与としては20~25万円が最も多いのに対し、適正と考えている給与としては25~35万円と考えている人が最も多かった。
- ・仕事への満足度としては約6割の方は満足度が高い結果であったが、質問項目の中に「どちらともいえない」の項目を作っており、それを含めると満足度が低い人は4割いることがわかっていいる。また、就労継続意欲も同等の数値結果となっている。

この結果より、「仕事の満足度は高い人が多いが、給与は適正額と思えていない数値」に注目した。満足度が高い理由については、福祉の仕事の魅力に関する質問項目において、社会的意義を感

じていることや、人に感謝される仕事であること等、感情に紐づく理由が多くあった。逆に、障害福祉の待遇や賃金についていいと感じる方は2名しかいないという結果になっている。

これらの結果を踏まえ、今後集計結果のまとめ、解析、事業所等における取組みの方向性について、東京都の「障害福祉人材の確保・定着に向けた事業所支援事業」を活用し、アドバイザーの助言も踏まえた議論を進めていく。

参考に自由意見欄より、台東区への要望として挙げられたコメントを紹介する。

台東区に引っ越してきて、障害福祉の仕事に出会い社会福祉の意義など感銘し、他者の自由を守る事は自分の自由を守ることだと感じ続けてきた。常勤として働く事業所は小さい事業所だが、支援内容や理念も共感し人間関係など円滑で満足している。賃金は処遇改善が入る様になり以前より高くなって良かったが、処遇改善は限定的でいつか無くならないかとの不安は残る。また、現場職員の処遇改善がされても、事業所収入が減っているとの事、小さい事業所は潰れても良いのかと疑問に感じている

- ・行政政策によって、事業所が危機に瀕する事態にならないよう一緒に考えて支えてほしい。
- ・福祉従事者も仕事を続けていける環境を整えてほしい。
- ・ヘルパー不足から利用者の生活にも制限が出てきているため、ヘルパー不足解消の為に一緒に考え行動してほしい。

(2) 講演会・勉強会・研修会について

テーマ:「首都直下地震への一人一人の備え」

東京都主催「東京防災学習セミナー」を活用し講演会を開催。

日時:令和6年12月17日(火) 13:30~15:00

講師:東京都防災学習セミナー

参加者数:20名程度

3. 今後のスケジュール

- ・検討課題「人材確保」の検討
- ・令和6年度講演会「首都直下地震への一人一人の備え」実施